

広域的な市街地等汚濁負荷削減手法等に関する調査

全体期間

1993.10～2002.3

本文 P.97～P.104

(目 的)

市街地からの非点源汚染源負荷は、主として降雨の初期段階における市街地の洗い出し（フラッシング）により湖沼に流入するものと考えられるが、これまで十分な調査研究が行われているとはいえず、汚濁負荷の性状、流出機構等、解明されていない面があり、有効な削減対策が講じられていない状況にある。

そこで、平成5年に「市街地排水浄化対策研究会」が設置され、各県のモデル地区において雨天時汚濁負荷流出調査や解析の検討を行ってきた。平成9年度には、それらの研究成果をもとに、これからノンポイント対策を実施しようとする地方公共団体が、汚濁負荷の実態を把握し、適正な対策が計画できるように、基本的な検討事項や手順を示した「市街地のノンポイント負荷に関する手引き（実態把握と予測手法及び対策）」建設省都市局下水道部監修、平成10年3月、(財)下水道新技術推進機構」を発売した。

平成10年度より、対策施設の実証実験、実施施設の機能評価を実施し、各県で得られた結果を踏まえ「市街地のノンポイント対策計画マニュアル（案）」を平成13年度に取りまとめ、発刊する予定である。

今回の報告では、平成12年度に実施された各県の実証実験、実施施設の機能評価についてその概要を報告する。

(内 容)

1. 茨城県

牛久市刈谷のモデル地区において、雨天時ノンポイント負荷の流出特性から効果的な対策と考えられる沈殿池およびろ過施設（高速ろ過）を対象区域流末に設け、牛久沼に流入する負荷削減対策の実証実験を行い、その効果と対策のあり方について検討を行った。

2. 千葉県

我孫子市湖北台団地のモデル排水区では、我が国初のノンポイント対策専用の貯留池が平成10年4月1日に供用開始となった。これを受け平成10年度より、雨天時ノンポイント負荷の流出実態および堰の分水特性の調査を行ってきた。平成12年度は最終年度として、流出解析モデルを用いた年間での負荷削減効果の予測を行い、湖北台雨水貯留施設の機能確認を行った。

3. 長野県

岡谷市のモデル排水区の流末の歩道下に小規模の貯留施設を設置し、この貯留槽による負荷削減効果および対策施設のあり方（維持管理の容易な構造等）について検討を行った。

国土交通省都市・地域整備局下水道部、茨城県、千葉県、長野県からの受託研究
研究担当者：中里 卓治、田代 敏郎、曾我 誠意、田中 孝、大塚 正典

キーワード

ノンポイント、貯留池、沈殿池、ろ過